

日本SPF豚研究会の新発足に寄せて

日本SPF豚研究会会長 柏崎 守

日本SPF豚研究会は、平成3年4月に日本SPF豚協会内の一組織として設立されました。本研究学会設立の理由として、①SPF豚の普及に伴ってコマーシャル段階の生産者サイドから、飼養・疾病・栄養といった面から新たな問題が提起されるようになったこと、②SPF豚生産ピラミッド数の増加に伴って技術面から平準化・基準化を図る必要性がでてきたこと、③SPF豚の健全な普及を図るためには、SPF豚の生産過程で得られたもろもろの成績を広く公開して批判を仰ぐことが大切であること、さらに④近年の養豚技術の進歩にはめざましいものがあり、SPF豚経営には最新の研究情報の入手や意見交換の場が不可欠な情勢となっていること、などが上げられます。

日本SPF豚協会の目的は生産現場における技術的な問題について、会員それぞれの立場から一緒に考える場を提供することにあります。このため、研究会の運営にあたってはいろいろな立場の人達とのインターセクショナルな交流が可能となるよう配慮してきました。実際に会員になって頂いている方々は、コマーシャル豚の生産者やブリーダーのほか、養豚技術者や研究者などと多彩であり、他の研究会とはひと味違った会員構成となっております。こぢんまりした研究会ですが、会員皆様の絶大な協力と日本SPF豚協会の援助を頂きながら、これまでに研究発表会の開催、定期刊行物の発行、SPF豚農場の認定基準の検討などを通じてユニークな活動を行ってきました。

しかしその一方で、会員の皆様からは「研究会

は協会内の一部組織に止まらず、独自路線での活動を行うべきだ」との声が発足当初からありました。このため、研究会の分離独立について協会と協議を重ねてきたところ、この度の日本SPF豚協会理事会において承認され、ここに新発足となった次第です。新発足とはいっても、本家の協会さんからはこれまで通りのご支援を頂くことになっており、研究会のさらなる発展を図る所存であります。

ところで、日本SPF豚協会の調査によりますと、国における稼働中のSPF種豚数は平成5年3月末現在で11万頭を突破しており、将来的にはさらに増加することが予想されています。このような普及状況を踏まえ、日本SPF豚協会では以前からの懸案事項であったSPF豚農場に対する認定制度の導入についていよいよ検討を開始しました。それに先だって、日本SPF協会は昨年4月に日本SPF豚協会よりSPF豚農場認定制度に関する意見を求められたところです。このため「SPF豚農場認定基準制定検討委員会」を設け、数回にわたって会合を開き、その検討結果を昨年10月に「SPF豚農場認定基準制定に関する意見」としてとりまとめ、日本SPF豚協会に対して答申したところです。本制度の導入は、SPF豚経営の健全な発展を図るためにも何としても実現しなければならない課題であるといえますが、本号ではその意見書の全文を掲載しましたので、皆様には是非とも一読して頂き、遠慮のない意見をどしどしお寄せ頂きたいと思っております。